

国立研究開発法人国立環境研究所
契約監視委員会（第16回）議事概要

1. 日時

平成30年12月21日（金）13：00～15：00

2. 場所

AP秋葉原 4階 I ルーム

3. 出席者（委員（敬称略、五十音順））

加藤 暢一（国立研究開発法人国立環境研究所 監事）

西山 温（古賀総合法律事務所 弁護士）

野村 豊弘（日本エネルギー法研究所 理事長）

古米 弘明（東京大学大学院工学系研究科 教授）

4. 開会

議事に先立ち、立川理事から開会挨拶を行った。

5. 議題

- (1) 前回議事概要の確認について
- (2) 平成30年度上半期の随意契約の状況について
- (3) 平成30年度上半期の一者応札・応募等事案のフォローアップについて
- (4) その他

6. 議事

(1) 前回議事概要の確認について

事務局より資料に基づき説明が行われた。

委員からの主な意見は以下のとおり。

- 宿舍賃貸については、一般的にも、競争入札により対応できるとは考え難い。「随意契約の基準」の見直しを検討してはどうか。
(⇒「随意契約の基準」の見直しについて検討したい。)

(2) 平成30年度上半期の随意契約の状況について

平成30年4月1日から平成30年9月30日までに契約締結した案件のうち、随意契約案件（57件）について審議が行われた。なお、事前に抽出された2件については担当者へのヒアリングが行われた。

委員からの主な意見は以下のとおり。

- 企画競争の結果について、極端に低い得点でも採択されるのか。最低基準を設ける等整理が必要ではないか。また、「可」であるのに、「満足できるレベルよりやや劣る」という表現にも違和感がある。
(⇒最低基準点は定めていないが、「不可」項目がある提案者が最高点となった場合の扱いについて考え方を検討し、併せて文言の整理も行う。)

- 企画競争について、採点方法（優・良・可・不可の4段階や10段階評価など）や、総得点に対する組織のワークライフバランスの配点ウェイトが案件毎に異なるため、整理が必要ではないか。
(⇒当研究所における標準的な採点方法について検討したい。)

(3) 平成30年度上半期の一者応札・応募等事案のフォローアップについて

平成30年4月1日から平成30年9月30日までに契約締結した案件のうち、前年度（複数年契約を行っている案件については前回契約）に引き続き一者応札・応募となった案件（53件）について審議が行われた。なお、事前に抽出された2件については担当者へのヒアリングが行われた。

委員からの主な意見は以下のとおり。

- 抽出審査（福島県における水生生物への放射性セシウム移行調査等業務）について、競争参加資格で「放射能分析」を行った実績とあるが、必要以上の要件ではないか。「前処理」という表現でいいのではないか。
(⇒他機関の例にもならいこのような要件としたが、次年度以降の調達については要件緩和を検討したい。)
- 一者応札の改善に向けた、電子入札システムの導入について、応札者に対する事前の周知が重要である。
(⇒1者応札・応募等事案フォローアップ票にその旨追記するとともに、適切に周知を行う。)

(4) その他

- ・個別審査案件の抽出について、委員から以下の意見があった。
- 個別審査案件の抽出について、一定の分類から1つを抽出するなど、抽出を依頼する際に条件付けをされたい。
(⇒次回より御指摘のとおり条件付けをして、御連絡する。)
- ・次回の委員会は6月開催予定。その際の抽出審査案件については、野村委員長に案件を抽出いただくことに決定した。
- ・最後に、事務局より、本委員会資料（一部）及び議事概要について、委員の確認及び承認後に国立環境研究所ホームページに公表することを報告した。

以上